

# 平成30年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会

日時：平成31年 1月29日（火）午後1時30分～午後2時30分  
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 報告事項

- (1) 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について（資料1）

## 4 議 題

- (1) 議案第1号  
第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画（案）について（資料2）
- (2) 議案第2号  
第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催要項（案）について（資料3）
- (3) 議案第3号  
平成30年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会補正予算について（資料4）

## 5 その他

- (1) 今後の日程について（資料5）
- (2) 委員の再任について

## 6 閉 会

平成30年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会 出席者名簿

平成31年1月29日(火) 13:30~14:30

役職	所属・役職名	氏名(敬称略)	出欠	備考
会長	鳥取県知事 (鳥取県 副知事)	ひらい しんじ 平井 伸治 (のがわ さとし 野川 聡)	欠	野川副知事 挨拶のみ出席
委員	一般財団法人全日本ろうあ連盟 事務局長	ひきまつ みつじ 久松 三二	出	
	日本財団 理事長 (日本財団 公益事業部 部長)	おがた たけじゅ 尾形 武寿 (いしい やすのぶ 石井 靖乃)	出 (代理)	
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 理事長	しもがき あきのり 下垣 彰則	出	
	鳥取県商工会議所連合会 会長 (鳥取県商工会議所連合会 幹事長)	ふじなわ まきのぶ 藤縄 匡伸 (おおたに よしのり 大谷 芳徳)	出 (代理)	
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部 支部長	さわだ ひろこ 澤田 敬子	出	役員改選に伴い H30年5月に委員 就任
	鳥取県教育委員会 教育長	やまもと ひとし 山本 仁志	出	
	鳥取県福祉保健部長	ふじい ひでき 藤井 秀樹	出	
事務局	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長 (企画推進会議 委員長)	みやもと のりあき 宮本 則明		/
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 課長	たに しゅんすけ 谷 俊輔		
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 社会参加推進室長	あけば たつろう 明場 達朗		
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 課長補佐	きたがわ やすこ 北川 泰子		
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 係長	おおもり こうじ 大森 宏治		



## 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

### 1 大会の概要

- (1) 開催日時 平成30年10月7日(日) 午前9時から午後4時まで  
 (2) 開催場所 米子コンベンションセンター 多目的ホール(米子市末広町294番地)  
 (3) 演技内容 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、落語などのパフォーマンス  
 (4) 出場チーム 12都県から、全20チーム(22校)が出場  
 (5) 来場者数 約2,000人(入場無料)  
 (6) 大会結果

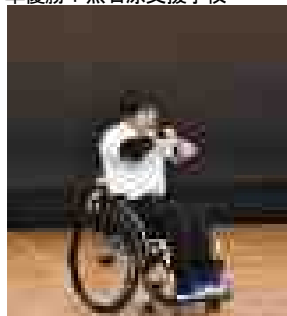
表彰内容	チーム名	演技分類	タイトル
優勝	<sup>まわし</sup> 真和志高等学校(沖縄県)※	ダンス・演劇	時をこえ ～今私たちができること～
準優勝	<sup>くろいしばる</sup> 黒石原支援学校(熊本県)	演劇・ポエム	車椅子に乗って気づいたこと
第3位	熊本聾学校(熊本県)	コント・落語	笑う門には福来る ～熊ろう寄席～
審査員特別賞	中央ろう学校(東京都)	ダンス・演劇・歌唱・ASL	THIS IS ME
全日本ろうあ連盟賞	立川ろう学校・富士森高等学校(東京都)	ダンス・演劇・イリュージョン	情熱 ～伊能忠敬とリコの阿波踊り～
日本財団賞	<sup>きょうわ</sup> 杏和高等学校(愛知県)	狂言	おそそ仁王
鳥取県聴覚障害者協会賞	ノートルダム清心高等学校・広島南特別支援学校(広島県)	歌唱・演劇・ギター演奏	広島の私達が今、伝えたいこと

※「時をこえ」という歌に乗せ、語り継ぐべき歴史や命の尊さなどの想いを手話とともに発信

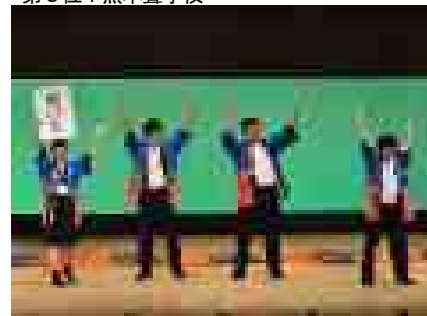
優勝：真和志高等学校



準優勝：黒石原支援学校



第3位：熊本聾学校



全日本ろうあ連盟賞：  
立川ろう学校・富士森高等学校



日本財団賞：杏和高等学校(大会初の狂言に挑戦)



鳥取県聴覚障害者協会賞：ノートルダム清心高等学校・広島南特別支援学校



《審査方法》(6名の審査員の審査得点を合計。(最大300点。))

種別	人数	審査項目	配点
ろうの審査員	3名	○手話の正確性・分かりやすさ ○演出力・パフォーマンス度	30点 30点(合計60点)
聞こえる審査員	3名	○演出力・パフォーマンス度	40点

## (7) 出演者等

内 容	氏名 (敬称略)	役職等
演技司会	早瀬 憲太郎	学習塾「早瀬道場」代表
	中野 郁海	AKB48 チーム8鳥取県代表
総合司会	原田 裕和	NHK鳥取放送局チーフアナウンサー
ゲストパフォーマー	手話パフォーマンスきいろぐみ	ろう者と聞こえる人で構成されたサインパフォーマンスグループ
審査員長	庄崎 隆志	演出家・俳優
審査員	小中 栄一	全日本ろうあ連盟副理事長
	貴田 みどり	女優・ダンサー
	門 秀彦	絵かき
	金沢 映子	舞台女優
	寺川 志奈子	鳥取大学地域学部教授

演技司会の早瀬氏と中野郁海さん

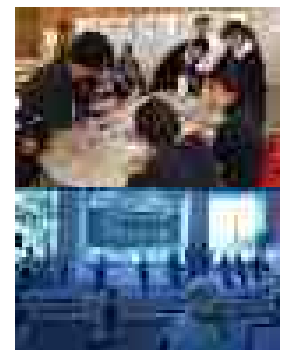


手話パフォーマンスきいろぐみ



## (8) 同時開催の催し

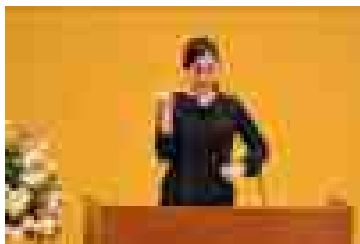
- あいサポート・マルシェ (障がい福祉サービス事業所による飲食物や雑貨等の販売)
- 鳥取聾学校写真作品展
- 高校生の実習製品等の販売コーナー (倉吉農業高等学校、米子松蔭高等学校)
- 高校生による郷土芸能ステージ (米子白鳳高等学校 (淀江さんこ節))
- 手話カフェ
- ワークショップ (砂像色付体験等)
- 鳥取県聴覚障害者協会コーナー、鳥取県手話サークル連絡協議会コーナー
- 公式グッズ販売コーナー、鳥取県特産品販売コーナー 等



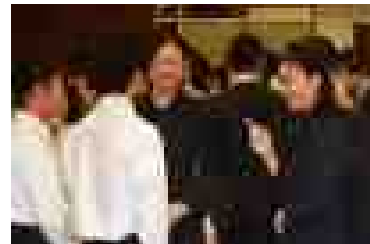
## 2 佳子内親王殿下の御臨席について

2年ぶりに佳子内親王殿下の御臨席を賜り、開会式では、手話に対する意識を高める活動に尽力されている方への敬意、手話パフォーマンスに取り組む高校生の姿に深い感銘を受けてこられたことや今大会への期待などのおことばを賜った。また全出場チームの演技を御覧いただいた。

また、大会前日の交流会にも御臨席を賜り、出場校の代表生徒と御歓談いただいた。



開会式でのおことば



交流会での御歓談

## 3 その他

- ・大会の様子を手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル (You Tube) にてライブ配信を行った。
- ・約 50 席のサテライト会場を情報プラザに用意し、ホールに入れなかった方のために大会の様子を放映した。また、障がいのある方、車椅子の方などを対象にホール内前方にハートフル席を設けた。
- ・会場内では、情報保障として、手話通訳、要約筆記のほか、音声ガイド受信機や要約筆記タブレットの貸出しなどの各種サービスを実施した。
- ・10月6日にANAクラウンプラザホテル米子にて交流会を開催し、出場チーム、出演者、来賓等約 300 人が参加して交流を深めたほか、井崎哲也氏のサインマインやマグロの解体ショー等の催しを行った。
- ・9月10日(月)に境港総合技術高等学校と米子東高等学校にて「HANDSIGN SCHOOL PROJECT」を開催し、手話についてのトークや手話パフォーマンス体験等を行い、大会や手話の魅力 PR 等を行った。
- ・11月4日(日)16:30 から日本海テレビにて大会ダイジェストテレビ番組を放送した。

## 4 大会成果

### 【ポイント】

- 過去最多の 62 チームの参加申込など、大会や手話への関わりの裾野が着実に拡大している。
- 一般高校と聾学校との合同チーム出場や聴覚障害者協会等による生徒への手話指導など、大会参加を通じて、きこえない人ときこえる人との交流がますます拡大してきている。
- 佳子内親王殿下の御臨席をはじめ、多くの方に御来場いただくとともに、新聞・テレビ報道等により、大会開催と手話言語への理解等について、県内外に広く発信することができた。
- 大会後に、出場チームが地元イベント等で演技を披露するなど、大会当日のみならず、全国各地に手話パフォーマンスの輪が広がり、手話言語への理解が進展している。

### (1) 裾野の拡大

- 過去最多 62 チーム(65 校)が参加申込み。うち 19 チーム(21 校)初参加で、着実に裾野が拡大
- 第 1 回大会から第 5 回大会まで延べ 2 7 6 校(実数 1 2 5 校)が 35 都道府県から参加

区 分	第 5 回大会	第 4 回大会	第 3 回大会	第 2 回大会	第 1 回大会
参加申込チーム数 (学校数)	6 2 チーム (6 5 校)	5 4 チーム (5 5 校)	6 1 チーム (6 5 校)	4 7 チーム (5 0 校)	4 1 チーム (4 1 校)
都道府県数	2 8 都府県	2 7 都道府県	3 0 都道府県	2 2 都道府県	2 1 都道府県

### (2) きこえない人ときこえる人との交流の拡大

- 一般の高校と特別支援学校との合同チームが 4 チーム予選参加(うち 2 チームが本大会出場)し、大会を通じて、障がいを超えた高校生同士の交流が拡大(昨年は 2 チームが参加申込)

- ◇立川ろう学校・富士森高等学校(東京都)
- ◇ノートルダム清心高等学校・広島南特別支援学校(広島県)
- ◇筑波大学附属桐が丘特別支援学校・同駒場高等学校(東京都)・同坂戸高等学校(埼玉県)
- ◇鳥取聾学校・岩美高等学校(鳥取県)

- 大会参加を契機に、高校生と各種団体等との新たな交流が生まれている

聴覚障がい者協会や手話サークル等による高校生への手話指導等(岡崎東高校、済美高校、杏和高校等)

### (3) 全国各地に手話言語への理解・普及が拡大

- 県内外から約 2, 0 0 0 名の来場をいただき、幅広い世代に手話言語への理解が進展

(その他、大会当日のライブ配信(YouTube)の再生数は延べ 4500 回以上で全国で多くの方が視聴)

- 全国・地方のメディアに取り上げられ、大会認知と手話言語への理解が拡大

新聞等

県内各新聞、琉球タイムス、沖縄新報、中国新聞、中日新聞、読売新聞(愛知版)、スポニチ Annex など

テレビ

NHK(Eテレ)「ろうを生きる難聴を生きる」(11月3日、11月10日)、

中京テレビ「ゴリ夢中」(11月3日)、その他 大会を伝える報道ニュースなど

- 大会後に、出場チームが地元イベント等で手話パフォーマンスを披露する等、大会当日のみならず、全国各地に手話パフォーマンスの輪が広がり、手話言語への理解が進展

真和志高等学校、横浜南陵高校、杏和高校、奈良県立ろう学校、田鶴浜高校、鳥取城北高校 など

### (4) その他

- 高校生ボランティアの参加により社会体験・学習の場や高校生同士の交流の場となっている

・今回は県内 6 校から 4 0 名の生徒が出場チームのアテンドなどのボランティア参加

- 大会を重ねるごとに、演技内容が深化

・諸課題等に訴えかけるものなど演技内容が深化し出場生徒及び観客双方に意義深い大会になっている



## 第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画（案）

### 1 目的

ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

### 2 主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

### 3 共催

鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

### 4 特別協賛

日本財団

### 5 特別協力

一般財団法人全日本ろうあ連盟

### 6 後援（予定）

内閣府、厚生労働省、文部科学省、鳥取市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

### 7 開催日及び場所

#### (1) 本大会

ア 開催日 平成31年秋

イ 場所 とりぎん文化会館 梨花ホール（鳥取市尚徳町101番地5）

#### (2) 交流会

ア 開催日 本大会の前日

イ 場所 鳥取市内

#### (3) 予選審査会・結果発表

ア 開催日 平成31年8月1日（木）、2日（金）

イ 場所 鳥取市内

### 8 参加募集

平成31年5月20日（月）から7月5日（金）まで ※予選審査動画の提出期限：7月19日（金）

### 9 参加資格

高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）・特別支援学校高等部・高等専門学校（3年生まで）・専修学校及び各種学校の修業年限が高等学校と一致している生徒（校長の推薦書が必要）

### 10 演技内容

手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才など  
（1チームあたり6分以上8分以内）

### 11 本大会出場チーム

予選審査を通過した 15チーム

①地方ブロック枠：6チーム、②得点順枠：6チーム、③合同チーム枠：1チーム、

④初出場枠：1チーム、⑤開催地枠：1チーム から選出

## 12 表彰

優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞、その他全ての出場チームに賞を授与する。

## 13 審査

### (1) 予選審査会

#### ア 審査方法

動画視聴による審査（3分以内）を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、本大会出場チームを決定する。

#### イ 審査員

4名（聞こえる人2名、ろう者2名）

### (2) 本大会

#### ア 審査方法

ステージ演技による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、各受賞校を決定する。

#### イ 審査員

6名（聞こえる人3名、ろう者3名）

## 14 本大会及び交流会の内容

### (1) 本大会

#### ア 時間（予定）

午前9時30分から午後4時まで

#### イ プログラム

- 1) 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介等）
- 2) 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内）
- 3) ゲストパフォーマンス
- 4) 審査結果発表・表彰式
- 5) 閉会

### (2) 交流会

#### ア 時間（予定）

午後6時から午後7時30分まで（終了後30分間は高校生同士の交流時間とする）

#### イ 参加者

出場チーム（生徒・引率者）、出演者（司会、審査員等）、来賓、実行委員会関係者等

#### ウ プログラム

- 1) 関係者挨拶、乾杯
- 2) 歓談
- 3) 出場チーム抱負 等

## 15 その他

- ・大会の裾野の拡大やレベル向上を図るため、今大会より前に複数回参加申込をするも予選を通過したことのない学校を対象に、手話及び演技についてアドバイスできる者を希望する学校に派遣する
- ・ろう者とろう者以外の者との交流促進のため、大会への参加が、学校と各都道府県聴覚障害者協会との交流の契機となるよう、参加申込みした旨を学校から協会へ情報提供することを推奨

## 【資料 2 - 2】

### 第 6 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画 変更要点

#### 1 全国の精鋭が集う憧れの大会とするとともに、更に内容の濃い大会とする取組

##### ① 本大会（本選）出場チームを 15 チームとする（現行 20 チーム）

- ・本大会（本選）出場校の更なるレベル向上を図り、全国の精鋭が集結する憧れの舞台となる大会を目指す
- ・時間的な余裕を生み出し、出場者及び観覧者双方ともに満足いただける質の高い大会とする

##### ② 本大会（本選）出場チームは全国から選ばれた精鋭として、出場全 15 チームを表彰する

- ・本大会（本選）出場自体を荣誉として讃えて表彰することにより本大会（本選）出場価値を高める

##### ③ 手話・演技アドバイザーを希望する学校に派遣し大会レベルの向上を図る

- ・対象は、今大会より前に複数回参加申込をするも予選を通過したことの無い学校とする。
- ・上記のうち希望する学校へ、手話及び演技についてアドバイスできる者を派遣し、大会の裾野の拡大及びレベルの向上を図る。

（派遣学校数：2 校を想定、派遣時期：予選動画提出前）

#### 2 ろう者とろう者以外の者との交流促進を図る取組

##### ① 本大会（本選）出場チーム枠に、聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他学校との合同チーム枠を新設する

- ・大会参加を通じて、聴覚障がいを対象とする特別支援学校（聞こえない生徒等）とその他学校（聞こえる生徒等）の交流促進及び相互理解促進により共生社会の実現に資する

##### ② 大会を通じた学校と各都道府県聴覚障害者協会との関わりが生まれるきっかけづくり

- ・大会参加申込校の地元における聴覚障害者協会との交流促進の観点から、大会参加申込みした旨を学校が各都道府県聴覚障害者協会に情報提供することを推奨する





## 第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項 (案)

1. 目的 ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。
2. 大会概要
  - (1) 大会名 第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 (以下「本大会」という。)
  - (2) 日時 平成31年秋  
午前9時30分から午後4時まで (時間は予定)
  - (3) 会場 とりぎん文化会館 梨花ホール (鳥取県鳥取市尚徳町 101 番地 5)
  - (4) 出場 予選審査を通過した 15 チーム
  - (5) 内容 以下のとおり
    - ①開会式 (関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介)
    - ②出場チーム演技 (演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内)
    - ③ゲストパフォーマンス
    - ④審査結果発表・表彰式
    - ⑥講評・閉会
3. 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
4. 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
5. 特別協賛 日本財団
6. 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
7. 後援 内閣府、厚生労働省、文部科学省、鳥取市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、(予定) 一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM
8. 参加資格
  - (1) 平成31年度に高等学校 (中等教育学校の後期課程を含む。)、特別支援学校高等部、高等専門学校 (3年生まで)、専修学校及び各種学校 (修業年限が高等学校と一致している生徒に限る。) に在籍していること。
  - (2) 本大会に参加することについて、校長の承認が得られていること。また、参加する生徒について、校長の推薦が得られていること。
  - (3) 本大会への参加に当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。
  - (4) 原則として、本大会の全日程及び本大会前日のリハーサル及び交流会に参加できること。
9. チーム編成  
1チームの編成は、同一校又は複数校で編成するチームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、演技

の補助者や必要に応じてチームの介添え者を含めることとする。人数は最大で生徒 20 人以内、引率者 10 人以内とする。なお、同一校からの複数チームの参加申込みは可能とするが、本大会に出場できるのは予選審査で同一校中、最上位のチームのみとする。

## 10. 演技内容

- (1) 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話言語を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。なお、審査基準としては、必ずしも音(音声や音楽など)を用いる必要はないことを申し添える。
- (2) 演技時間は、6分以上8分以内とする。なお、予選審査会においては、3分以内の動画を提出するものとする。
- (3) 演技スペースは、概ね間口10メートル、奥行5メートルの範囲とする。
- (4) 情報保障の観点から、演技中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。
- (5) 舞台上での演技(音声による演技補助を含む)は全て生徒が行うこととし、字幕表示、音響・照明のキュー出し等、演技以外の舞台進行に係る作業は生徒が主体的に行うよう努めること。
- (6) 演技の補助として、準備に時間を要しない簡素な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ使用を認める。
- (7) スクリーンに表示する内容について、字幕の他、演技のイメージを伝える画像の使用は認めるが、動画の使用は認めない。なお、著作権の発生するものについては、20(10)を参照すること。
- (8) 予選審査における撮影ルール等の取り扱いは、別途提示する。

## 11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査会4名、本大会6名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、参加申込みチームが提出した演技動画を視聴する方法により、審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

## 12. 参加申込み方法

- (1) 申込期間 **平成31年5月20日(月)から7月5日(金)まで【必着】**  
※予選審査動画の提出期限は、**平成31年7月19日(金)まで【必着】**
- (2) 提出資料 別紙のとおり
- (3) 補足事項
  - ア (2)の書類は、13.の申込み先まで指定する方法及び期限に沿って提出すること。
  - イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添のとおり取り扱うので、同意の上、参加申込みを行うこと。
  - ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は、平成31年7月19日(金)までとする。まずは、(1)の期間中に参加申込みを行うこと。なお、可能な限り早期の申込みをお願いしたい。
  - エ 参加申込み及び予選審査動画は、各期限日必着とする。資料は期限日までに余裕を持って提出するよう努めること。なお、資料送付した際、その旨を大会事務局に電話連絡することが望ましい。
- (4) **その他**  
**各学校と各都道府県聴覚障害者協会(以下「協会」という。)との関わりが生まれる契機となるよう、参加申込みした旨を協会に情報提供することが望ましい。**

## 13. 申込み先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地

手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課内。以下「事務局」とする。)

電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.lg.jp

## 14. 参加料 不要

## 15. 助成金

出場チーム(生徒、引率者)に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。なお、助成申請方法等については、別途事務局が示す手続きによること。

- (1) 交通費（領収書等必要）  
実費相当額を助成（1チーム当たり 250,000 円を上限とする。）
- (2) 宿泊費（領収書等必要）  
実費相当額を助成（1チーム当たり 85,000 円を上限とする。）

## 16. 表彰

表彰区分は次のとおりとする。

- (1) 優勝（賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。）
- (2) 準優勝（賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。）
- (3) 3 位（賞状、メダル、副賞を授与する。）
- (4) 審査員特別賞（賞状、副賞を授与する。）
- (5) 全日本ろうあ連盟賞
- (6) 日本財団賞
- (7) 鳥取県聴覚障害者協会賞

※その他、上記受賞チーム以外の方々の本大会出場チームに賞を授与する。

## 17. 予選審査会

- (1) 日程 平成 31 年 8 月 1 日(木)及び 2 日(金)
- (2) 場所 鳥取市内
- (3) 内容 参加申込みチームが提出した予選審査動画の視聴により審査を実施し、本大会に出場する 15 チームを選出する。
- (4) 結果 平成 31 年 8 月 2 日(金)に審査結果発表会を行う（公開。ライブ中継あり）。なお、発表会終了後、公式ホームページ上に審査結果を掲載する。
- (5) その他 上記(4)の審査結果発表会の際に、本大会の各チームの演技の順番及び選手宣誓を担当するチームを抽選で決定する。（本大会出場チーム発表後に、抽選を行う。）

## 18. 交流会

- (1) 日時 本大会の前日  
午後 6 時から午後 7 時 30 分まで（時間は予定）
- (2) 場所 鳥取市内
- (3) 内容 出場チームや大会関係者等が一堂に会し、食事を交えて交流を深めるもの。
- (4) その他 参加者の交流を深める目的であることから、原則として参加すること。（参加費は不要。）

## 19. スケジュール

平成 31 年	月	日( )	本大会の開催決定
	月	日( )	本大会の開催日及び開催要項公表
	5 月 20 日(月)		参加申込み受付開始
	7 月 5 日(金)		参加申込み締切
	7 月 19 日(金)		予選審査動画の提出締切
	8 月 1 日(木)		予選審査会
	8 月 2 日(金)		予選審査会、審査結果発表（結果発表、本大会演技順及び選手宣誓チームの抽選決定）
	8 月 30 日(金)		ヒアリングシートの提出（演技内容の詳細（シナリオ・楽曲等）の報告）
	月	日( )	リハーサル、交流会
	月	日( )	本大会

## 20. その他

- (1) 本大会前日に本大会と同会場ですべてのチームがリハーサルを実施する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、会場までのアクセスや本大会の発表順等を考慮して事務局にて指定する。また、できる限りの配慮は行うが、当日の午前中からリハーサルを実施する関係で、本大会前々日から宿泊が必要となる場合もあるので、承知すること。
- (2) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (3) 演技上のセリフや歌詞等に対応させた字幕を必ず付与すること。なお、演技の字幕は、予選審査動画

においては映像の中に、本大会においては舞台の後ろに設置するスクリーンに表示させること。また、本大会における字幕の表示はパフォーマンスの表現の一環であることから、自ら行うこと。なお、演技中は、主催者側でセリフの要約筆記等は行わない。

- (4) 演技で使用する小道具及び会場にない設備（特殊な照明や音響等）を使用する場合（準備が1分以内に完了できるものに限る。）は、原則として各チームにおいて用意すること。なお、これらの使用については、本大会前に舞台監督と詳細を打ち合わせすること。
- (5) 舞台上の演技者が演技の主体となるように構成すること。なお、演技者とスクリーン映像の視聴は両立しないことを前提に、あくまで演技者に観客の目を向けさせるような構成に努めるとともに、スクリーンの使用は字幕の表示を中心に、画像の使用を必要最小限とすることが望ましい。
- (6) 歌唱を行う際は、発話が困難な場合を除き、CD音源や事前収録した音源を歌唱に利用する（いわゆる口パクやかぶせ）のではなく、是非、自ら発声する方法で本番（予選審査を含む。）に挑戦してほしい。なお、CD音源や事前収録した音源の歌唱利用を禁止するわけではないので、申し添えておく。
- (7) 本大会の演技は、後日、手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル(YouTube)上に、全て公開する。
- (8) 本大会において演技中にCD音源を使用する場合、インターネット(YouTube)上での配信について著作権者の許可が得られないものについては、CD音源部分の音声（歌唱やセリフ等）を消去した上で本大会当日のライブ映像及び後日公開する映像を配信する。なお、各チーム等が作成した音源（ピアノやブラスバンド伴奏、生徒の合唱等。CD音源が含まれないもの。）については、著作権及びYouTube上、音声を消去する必要がない（ただし、音源の作成者の了解が得られたものに限る。）ことから、その音源も含めてライブ映像等を配信することができる。
- (9) 演技時に自校の完全なオリジナル作品ではない著作物を引用等する場合（シナリオや美術道具、ダンス等）は、会場での上演や、本大会当日のライブ配信、大会後の演技映像の公開にあたって、著作権を侵害することのないよう自校において事前に対処しておくこと。なお、音楽については(8)のとおりだが、楽曲の改変（歌詞を変えたり、編曲するなど）に該当する場合は、著作権者の許可が必要となるため、留意すること。
- (10) 演技中、著作権が発生する画像等をスクリーンに表示させたい場合は、著作権を侵害することのないよう自チームにて会場、ライブ配信及び大会後の公開映像での当該画像等の使用について、全て著作権者の許可を得ること。なお、このことから、可能であれば自チームで制作した著作権の発生しない画像等を使用することが望ましい。
- (11) 高校生による手話言語の祭典であるという観点から、演技時だけではなく、演技後のインタビュー時の応答や、交流会での各チームの発表、その他様々な発表の機会や交流の場面においても、各自ができる範囲で（少しでもいいし、間違ってもいいので、）是非、積極的に手話言語の使用に挑戦してほしい。
- (12) 本大会出場にあたっては、出場チームが確実に宿泊できるよう宿泊先の斡旋を行う予定。（利用は任意）
- (13) 引率代表者は、事務局との連絡調整を担当すること。なお、主に電子メールにて頻繁に連絡等を行うこととなるため、参加申込み後は小まめに電子メールの受信を確認するよう努めること。
- (14) 本大会出場チームには、予選審査結果発表後に各種資料等の提出をお願いすることとなる。この時期が夏休み及びお盆期間と重なるので、引率代表者は事務局及びチーム内の円滑な連絡調整ができるよう留意すること。
- (15) 予選参加申込み及び本大会出場に係る事務局への提出物は、返却しない。

## 平成30年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支予算書

## (1) 収入の部

(単位:円)

科目	予算	補正額	補正後 累計	主な補正理由	備考
助成金	33,980,000	0	33,980,000		日本財団助成金
負担金	13,824,000	△ 1,824,000	12,000,000	精算(実績見込)に伴う減(お成り経費)	鳥取県負担金
協賛金	1,900,000	335,000	2,235,000	精算(実績)に伴う増(39企業・団体、個人2名)	協賛金
手数料	180,000	33,000	213,000	精算(実績見込)に伴う増	応援自販機手数料
雑入	150,000	△ 42,000	108,000	精算(実績見込)に伴う減	寄付金、預金利息
繰越金	1,010,421	0	1,010,421		H29年度からの繰越金
合計	51,044,421	△ 1,498,000	49,546,421		

## (2) 支出の部

科目	予算	補正額	補正後 累計	主な補正理由	備考
実行委員会運営費	600,000	0	600,000		実行委員会の開催経費等
広報宣伝費	6,000,000	△ 200,000	5,800,000	精算(実績見込)に伴う減	チラシ・ポスター制作、TV番組制作委託、広告費等
大会開催費	9,944,421	△ 1,368,000	8,576,421	精算(実績見込)に伴う減	会場使用料、出場チーム旅費等助成、表彰物品等
大会運営委託費	34,500,000	70,000	34,570,000	精算(実績見込)に伴う増	大会企画運営委託業務等
合計	51,044,421	△ 1,498,000	49,546,421		

## 第 6 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

H31年1月29日現在

日程	内容	備考
H31年1月29日(火)	H30 実行委員会総会	第6回大会開催決定、第6回大会基本計画、H30補正予算等
H31年2月22日(金)	H30 企画推進会議(第4回) 第6回大会の開催日決定	第6回大会開催要項、予選審査・選考方法等 第6回大会の日程及び開催要項公表
<b>H31年4月</b>	<b>H31 実行委員会(第1回書面会議)</b>	
H31年4月	大会チラシ、ポスター等の送付	・全国の高等学校、特別支援学校等、各都道府県、政令指定都市等、各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体、県内各市町村、県内公共施設等
H31年5月20日(月)	参加申込み受付開始	
H31年6月	H31 企画推進会議(第1回) 情報保障コーディネイトチーム(第1回)	第6回大会実施計画等
H31年7月5日(金)	参加申込み期限	
H31年7月19日(金)	予選審査動画の提出期限	
H31年8月1日(木) 8月2日(金)	予選審査会 結果発表	動画審査、結果発表、本大会演技順番、選手宣誓チームの決定
H31年8月下旬	H31 企画推進会議(第2回) 情報保障コーディネイトチーム(第2回)	第6回大会実施計画、予選審査結果
H31年8月30日(金)	ヒアリングシートの提出	演技内容の詳細(シナリオ・楽曲等)の報告)
H31年秋 (本大会前日)	第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園リハーサル、交流会	リハーサル:とりぎん文化会館 交流会:鳥取市内
H31年秋	第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園本大会	とりぎん文化会館
H31年11月	H31 企画推進会議(第3回) 情報保障コーディネイトチーム会議(第3回)	第6回大会開催結果の報告、次回大会に向けた検討等
H32年2月	H31 実行委員会総会	第6回大会開催結果の報告 次回大会の検討等
H32年2月	H31 企画推進会議(第4回)	次回大会の検討等

